

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	必修・選択	選択	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	-------	----	------	----	-----	-----

科目コード	NC230	科目名	生活援助Ⅱ(障害者)	担当者名	渡部 誠
授業の概要	障害の特性や当事者の生活を踏まえ、本人と家族の視点に立脚した生活援助のあり方を学ぶ。その方法として、まず障害者の日常生活に伴う困難を、精神、身体、生活環境など様々な側面から分析的に理解する。その上で、介護を中心とした専門的援助に関する学習へと展開する。				
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害を各論的に理解し、それぞれが抱える生活課題の特徴と支援方法を理解する。 ・障害者の暮らしを生命・生活・人生で捉え、それを介護面から支える知識と技術を習得する。 ・障害者総合支援法など本人や家族を支えるための制度の仕組みと活用法について習熟する。 ・上記を通じて、障害者の生活援助に必要な知識と実践力を身につけることを科目の到達目標とする。 				
DPの観点	②専門知識・技能 ⑤コミュニケーション能力 ⑩論理的思考力				
授業時間外学修(予習・復習)	「障害の基礎理解」で学習した内容をもとに、障害者福祉についての基礎知識を整理して授業に臨む。また、過去の国家試験問題を参考に、学習の狙いやポイントを明確化しておく。授業ごとにノートを整理し、学習内容の復習も丁寧に。予習・復習は、それぞれ最低でも1時間以上行う。				
フィードバックの方法	学びの中の疑問をクラスで共有し、対話を通じて解決しながら授業を進行する。課題等に関しては、その後の学びにつながるよう、助言を付して返却する。出席表のメモ欄をフィードバックと学習支援に活用する。				
単位認定の要件	15回の授業終了後に行う期末試験の成績と、授業中の勉学意欲及び学習態度を単位認定の要件とする。				
評価の方法・割合(%)	期末試験(80%)、勉学意欲及び学習態度(20%)				
履修上の注意事項	授業の進行に沿って適宜伝達する。				

回数	予定	実施	テーマ・内容	観点	方法
1			【授業概要の説明と障害の全体的理解】 授業の概要を確認し、障害の種類や全体像を理解する。	②⑩	コミュニケーションカード
2			【障害の理解(身体障害)ー1】 視覚障害、聴覚・言語障害等と生活援助の要点を理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
3			【障害の理解(身体障害)ー2】 肢体不自由、内部障害等と生活援助の要点を理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
4			【障害の理解(知的障害)】 知的障害について理解を深め、援助の要点を習得する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
5			【障害の理解(発達障害)】 発達障害について理解を深め、援助の要点を習得する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
6			【障害の理解(精神障害)】 精神障害について理解を深め、援助の要点を習得する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
7			【障害の理解(エイジング)】 高次脳機能障害や重症心身障害の障害特性と援助法を理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
8			【障害に伴う心身の変化と環境(住環境)】 様々な障害と住環境を中心とした生活支援の在り方を理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
9			【障害に伴う心身の変化と環境(社会環境)】 社会環境の視点から障害者の生活支援を理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
10			【家族の理解と支援】 介護者や家族に対する支援の在り方を理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
11			【他職種の理解と協働】 様々な関連職種の専門性と連携の取り方を理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
12			【障害者の介護と社会資源の活用】 フォーマル、インフォーマルな社会資源とその活用法を理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
13			【障害者福祉に関する諸制度の理解と活用】 障害者総合支援法等の制度及び障害者手帳について理解する。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
14			【障害者支援と今後の課題】 障害者福祉の現状と今後の課題について理解を深める。	②⑤⑩	コミュニケーションカード
15			【まとめ】 学習した内容を整理して、総合的にまとめる。	②⑩	コミュニケーションカード
期末試験			期末試験を実施する		

使用テキスト	『新・介護福祉士養成講座 第13巻 障害の理解』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
参考文献 参考URL	『自閉症の脳を読み解く』 テンプル・グランディン NHK出版、『大人の発達障害』 備瀬哲弘 集英社、そのほか、授業の進行に沿って適宜紹介する。
備考	

10の観点	①判断力②専門知識・技能③意欲・継続力④協働力⑤コミュニケーション能力⑥幅広い教養⑦主体性⑧社会性⑨情報活用能力⑩論理的思考力
-------	---

授業の自己評価	
---------	--